健診で早期発見

禁煙と食生活で予防

前立腺がん、膀胱がん、腎がん

増加する泌尿器系がん

――前立腺がん、膀胱がん、腎がんは増えているそうですね。

濱尾副院長　増加の原因の一つは、検査技術の進歩で早期発見が容易になったことです。前立腺がんは、精液をつくる前立腺にがんができるもので、男性特有の病気です。前立腺特異抗原（PSA）測定という血液検査が普及し、早期発見が増えました。一般の健康診断時に、追加料金を払って検査を受けることができます。PSAは前立腺から分泌されるたんぱく質で、血液中に含まれる濃度を測ることで異常を発見できるのです。

さらに前立腺がんの場合、単に患者が見つかりやすくなったというだけでなく、罹患している人が増えているのも事実です。後ほどお話ししますが、食生活の欧風化が大きく影響しています。米国では男性のがんのうち、発生率で1位、死亡率で2位というデータがあります。日本は欧米に比べればまだ少ないですが、急激に増えています。

膀胱がんも増えている印象がありますね。腎臓がんに侵される腎がんは、人間ドックで腹部の超音波検査を受けたり、別の病気でCTスキャンを撮って、偶然発見される例が増えています。

性別では男性の方が罹患率が高く、膀胱がんは男性が女性の3倍、腎がんは男性が女性の2倍となっています。年齢的な特徴では、前立腺がんは50歳以下の発症は少ないことが挙げられます。前立腺がんの大半は進行が遅く、20～30年かけて大きくなるのが一般的だからです。

――三つのがんを疑うべき症状は。

濱尾副院長　前立腺がんは排尿障害や頻尿、腰ついや骨盤への転移に伴う腰痛などの症状が現れます。腎がんでは血尿、腹部腫瘤、側腹部の痛みが3大症状です。先ほど話したようにCTスキャンや超音波検査で見つかることがほとんどですが、がんが肺や骨に転移してレントゲン撮影や骨折によって、見つかることもあります。血尿が出た時は要注意。初期だと1回出た後、半年も1年も出ないことがあります。すると安心して受診しない人が多いのですが、必ず専門医に受診して下さい。それとおしっこが近い場合も注意が必要ですね。

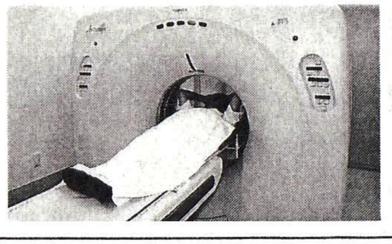
――それぞれの原因や危険因子は。

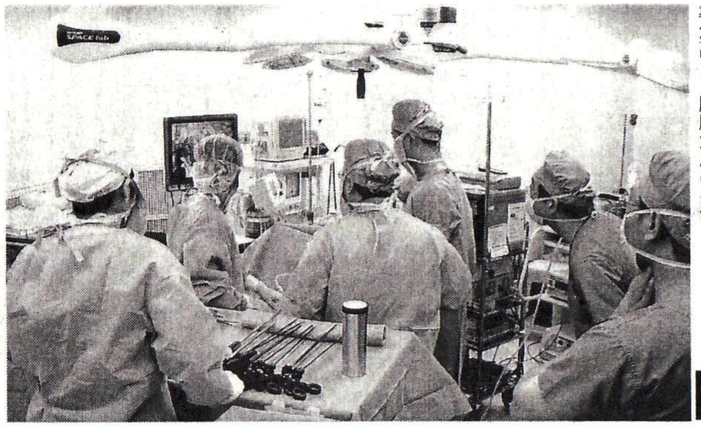
濱尾副院長　一般的にがんは喫煙、食事、遺伝の影響が大きいと言われます。特に前立腺がんは食生活と密接に関係しています。いわゆる欧米型の食事、肉などの動物性脂肪を取り過ぎる食生活は大きな危険因子です。同じ日本人でも、米国で育った場合と日本で育った場合を比べると、米国で育った方が5～10倍も罹患率が高いという調査結果も出ています。

膀胱がんでは、たばこ、染料などの特殊な化学物質が危険因子として挙げられます。腎ガンもたばこと肥満が危険因子です。膀胱がんと腎がんでは、たばこを吸う人は吸わない人の2倍のリスクを負うというデータもあります。一般論になりますが、がんの予防には、たばこを吸わないこととバランスの取れた食事をすることの重要性が改めて分かりましたね。

濱尾巧・亀井病院副院長

スタッフが集まり、症例の検討を行う


CTスキャンでがんの進行や転移の状況をチェックする


腎がんで部分切除手術を行う医師たち

自分にあった治療を

――次に検査方法を説明して下さい。

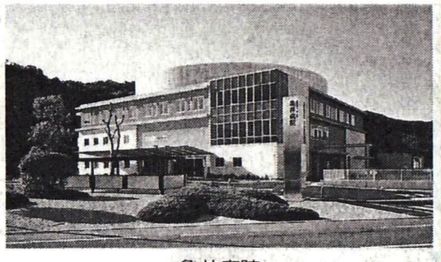
濱尾副院長　前立腺がんではPSAや超音波検査などで疑いが出たら、生検という検査をします。前立腺に針を刺して組織を採取し、がん細胞を見つけるのです。その後はCTスキャンや骨シンチグラフィーといった検査で進行状態や遠隔転位の有無を調べ、治療方法を決定します。

膀胱がんの場合は、自覚症状が出た場合、まず尿検査をします。尿の中の細胞を集め、がん細胞の有無を調べます。CTスキャンや超音波検査もありますが、確定診断は尿道からファイバースコープを挿入して膀胱内を観察する内視鏡検査で行います。腎がんは先に述べたように、CTスキャンや超音波検査ですね。

――では治療方法を。

濱尾副院長　前立腺がんでは、四つの治療法が基本になります。まず初期で悪性度の低い場合、PSA測定による定期的な経過観察だけにとどめる場合があります。前立腺がんは進行が遅く、10年、15年たっても症状が現れるがんにならないこともあります。がんが進行する危険はありますが、治療の副作用や弊害を避けるため、この方法が取られています。

早期段階では手術と放射線療法の二つがあります。どちらを選択するか、耳を下に向けて片足で跳びはねると良いでしょう。


亀井病院

がんが前立腺全体に広がったり、他へ転移している場合は、内分泌療法が主になります。前立腺がんは男性ホルモンのある環境で増殖するので、注射薬や飲み薬で男性ホルモンを抑えるのです。

膀胱がんでは、がんが表層部分でとどまっている場合には膀胱を残す方法が取られます。内視鏡で見ながら腫瘍を削り取る方法や膀胱に薬を注入してがんを殺す方法があります。

膀胱の筋肉壁まで広がっている場合は、すべて摘出しなければなりません。その時は尿路変更といって、新たに尿をためたり、排出する通路をつくる必要もあります。他に転移している場合は、薬剤でがんを殺す全身化学療法を行います。

腎がんは抗がん剤や放射線が効きにくいので、手術が主体になります。がんが小さい場合は、その部分だけを切除する方法を取ることが増えています。腎臓は二つあるので、昔は完全に摘出していたのですが、小さい場合、部分切除でも摘出とほぼ同等の治療成績が得られるからです。

それと二つの腎臓のうち、片方の機能が悪い場合も部分切除で済ませ、腎臓を温存します。それ以上進んでいると、副腎や周囲の脂肪を含めて腎臓をすべて摘出します。さらに遠隔転位している時は、放射線療法やインターフェロンなどを使った免疫療法を行います。

――最後にアドバイスや治療の心構えをお聞かせ下さい。

濱尾副院長　腎がんと前立腺がんの早期発見は検査以外にはありません。心配になったら人間ドックや健康診断を受けてもらうのが第一です。膀胱がんは先ほどお話ししたように、血尿が出たら必ず受診して下さい。それぞれの治療に当たっては、治療法は一つだけではないので、医師からの説明を受け、自分にあったものを選ぶのが一番いいと思います。

毎日新聞発行「救急読本」から

耳に異物

耳に異物が入った時は、無理して取ろうとしない方が無難。耳の粘膜は傷つきやすいので、ピンセットや耳かきなどの固いものは使わないように。

豆などの小さなものが入った場合は、異物が入った方の耳を下に引っ張りながら、頭の反対側をたたいてみると取りやすくなります。水が入った時も同様に

するか、耳を下に向けて片足で跳びはねると良いでしょう。

少し厄介なのが、生きている虫が入った時。どんどん奥へ進んで出てこなくなってしまいます。この場合は暗闇で懐中電灯を耳に当てると、光に誘われて出てくることがあります。

異物が入ったまま放置すると、炎症や中耳炎の原因に。取れない場合は必ず専門医に診てもらいましょう。